

最近のマーケットに関する質問にはこう回答しよう



Q1

最近日本の株価の変動が激しいけどこれからも続く？

企業業績が良好であるなど株価が大きく売り込まれる理由はなく、相場の過熱感もありません。冷静に考えれば絶好の買い場という見方もできます。



底値を付けた後は買戻しの可能性も

冷静に考えると、企業業績は良好かつ円安は正はいまの国内景気にはプラス要因で、株価に割高感はないうえ、配当利回りも十分に高く株式投資の魅力は後退していません。相場の乱高下している間は投資しづらいが、ひとたび底値を付けたとの見方が広がれば買戻しが入る可能性もある。

日

経平均株価は2024年7月11日の終値で4万2224円の史上最高値を付けた後、8月に入り急速に下げ足を速め、8月5日に3万1458円まで下落した。ピークからわずか16営業日で合計1万766円、下落率は25・5%に及ぶ。

特に8月5日は4451円安と、1987年10月19日の3836円安の下落幅を更新した。自然災害・軍事衝突等の、景気や相場を一変させる事態が発生したわけではなく、次のような株価の下落材料が

重なったことが原因である。

●8月2日の米国の7月雇用統計が市場予測よりも悪化し米景気の悪化懸念が台頭

●米国の利下げペースが高まるとの懸念と、7月31日に想定外のタイミングで日本銀行が利上げを実施したことで、急速に円高が進行

●中東情勢の悪化など地政学リスクが台頭

一つひとつは大きな下落要因ではないが、売りが売りを呼ぶパニック的な状況に陥った。他にもAIなどを使ったシステム売買が一斉に売りに

Q2

大統領選の影響か米国の株価も変動が激しいけど大丈夫？

FRBの金融政策の動向や大統領選の行方に関する様々な観測・思惑が交錯し、しばらくは荒っぽい動きが続きそうです。相場の細かい動きに振り回されないよう、落ち着いた投資行動を心がけましょう。



値上昇要因とされてきた。

Q1 (16ページ参照)でも触れたとおり、8月に入り発表された7月ISM製造業景況指数や7月雇用統計では、市場予想を下回る弱い結果となった。そのためハードランディング懸念が急速に高まり、利下げのタイミングが遅れた、もしくは利下げペースが速まるとの見方も出てきた。

また、バイデン大統領が7月21日に大統領選からの撤退を表明したことで、大統領選の行方が再び混沌としてきたという材料も加わった。

こうして相場が弱気に傾いていたタイミングで日本株価が急落したため、米国株価の下落が加速。その後、景気に対する悲観的な見方が後退し株価も反発しているが、景気がソフトランディングできるかどうかを巡ってしばらくは不安定な推移が続くそう。

日

本ほどではないが、米国でも株価が荒っぽく動いている。米国の代表的な株価指標であるダウ工業株30種平均は、2024年7月17日に終値で4万1198ドルの史上最高値を付けたが、8月5日には3万8703ドルまで約6・1%下落した。

ハイテク関連やIT関連の銘柄が多く含まれるナスダック総合指数は、ほぼ同時期に史上最高値を付けた後、約13・2%下落している。米国の株価上昇は景気拡大と良好な企業業績に加え、米

国の中央銀行への利下げ期待が上昇要因となっていた。利下げをすれば企業の利払いコストが低下し、景気拡大が長期化する可能性が高まるためだ。いわゆる景気がソフトランディング（景気の緩やかな減速）できるとの期待感の高まりが、株価の買い材料とな

った。また大統領選に向けた6月のテレビ討論会で現職のバイデン大統領をトランプ前大統領が圧倒したこと、7月13日の狙撃事件をきっかけにトランプ前大統領が当選するとの

株価反発も不安定な推移が見込まれる

しかし金融を引き締め過ぎたり、利下げに転換するタイミングが遅れたりすると景気が失速し、後退局面入りする懸念がある。7月半ばまではソフトランディング期待が強かったため、利下げ実施は株